平成 29 年 5 月 31 日(水)
練馬区立開進第四小学校
校 長 佐 々 木 秀 之

自 然 の 不 思 議 と ノ ー ベ ル 化 学 賞

校 長 佐 々 木 秀 之

若葉の鮮やかな季節、五月晴れの日が続き、子供たちが元気に校庭で遊ぶ声が爽やかに響いています。

先日、校舎裏の紫陽花に 10cm 以上もある大きなトンボを見付けました。まだ初夏なのにこんなに大きなトンボがいるのかと驚きました。すぐに飛び去ってしまったので、トンボの種類を調べることはできませんでした。自然の素晴らしさ、不思議さを感じた時、十年近く前に直接お話をお聞きしたノーベル化学賞を受賞された白川英樹先生の話を思い出しました。

白川先生は、自然の中で遊び回るのが大好きで、チョウを採ったり、川で泳いだりして野山を駆けずり回って遊び、自然の中で、「どうして雲が浮いているのだろう？」「この植物はなぜここにしかないのだろう？」その時はすぐにわからなくても、後から自然の中にかくされた法則を自分なりに見付け、ハッとする瞬間がとても楽しかったそうです。

中学生になると、「将来、新しい性能をもったプラスチックを作り出したい」という夢をもち、物の性質に関する研究を続けてこられました。あるとき、思わぬ失敗から偶然できた黒く光るプラスチックの膜を見て、プラスチックに電気を通すことができないかと考え、研究を重ねましたが、成功には至りませんでした。大学に訪れた外国の科学者がその研究に大変興味をもち、三人で共同研究をすることとなり、一年後、ついにプラスチックに電気を通すことに成功しました。目的をもって研究を重ねた上で偶然できたプラスチックは、その後の地道な努力と人々の協力により、ノーベル賞を受賞する世紀の大発見へと結びつき、現在、タッチパネルとして応用され、世界中で役立てられています。

白川先生は、「自然に親しみ、本物を見て自然の不思議と遊ぶこと。遊びながら考えたあなたの今日の発見が、何十年後かのノーベル賞につながっていくかもしれません。学校で 1 番じゃなくたって世界中の人をあっと驚かせ、みんなが認めてくれるような大きな仕事はできるのです。」と話されていました。

白川先生のお話は自然だけに限るものではないと思います。本物又は一流をじかに目にしたり触れたり聴いたりすることは子どもたちの感性を高めます。子どもたちの好奇心は旺盛です。自然をはじめ、本物の絵画、音楽、本、料理、スポーツ、科学技術、建築などに触れさせることは大切なことだと思います。何十年後か先、開進第四小学校の卒業生がノーベル化学賞を受賞したというニュースを聞くことができるよう、私たち大人が、子供たちに数多くの本物に触れさせたいものです。